

情報連絡員だより

－令和元年6月の報告より－

梅雨が多くの業種に影響を与える

業種／景況天気図		概況	
全 体		梅雨が多くの業種に影響を与える。気温低下により食料品のパンのみ好影響が期待されるが、繊維・同製品、窯業・土石製品、卸売業、小売業において悪影響を及ぼしている。また、機械・金属、卸売業、建設業において、人手不足の状況が続いている様子がうかがえる。	
製造業	食 料 品		製麺は、小売・業務向け商品ともに荷動きが鈍く売上微減となり、厳しい状況が続く。酒造は、普通酒の需要減少が続き売上減少。食肉は、稼働日数の減少や家畜の生育不良により売上減少。パンは、梅雨が長引き売上増に期待感あり。菓子は、売上・収益ともに前年並み。
	繊維・同製品		桐生織物は、婦人服地は前年並み、輸出向けは低調、和装織物は天候不順による夏物の買い控えを懸念。伊勢崎織物は、広巾織物が引き続き好調を維持。ニットは、原料となる糸の入荷が思うようにいかず今後を懸念。繊維製品は、全体的な業況悪化が継続しているが、販路開拓や新製品開発により一部で改善がみられる。
	窯業・土石製品		生コンは、中央地域の出荷量減少に加え官公庁関係の仕事も減少しており売上減少。砕石は、新年度事業の発注が不活発な地域が多く、業況が悪化している。砂利は、八ッ場ダム関係の工事減少及び設備修繕費の増加により売上・収益ともに減少。コンクリートブロックは、雨の日が多く出荷量が減少し売上が伸び悩む。
	機械・金属		鍍金は、自動車部品関係が上向きつつあるが、中国向け製品の受注量が軒並み減少。電気関連は、9月の決算に向け各メーカーが増産体制を敷き売上増加。自動車部品は、仕事量に落ち込みは見られないが、人手不足が続いている。SUBARU関連は、回復傾向が続くものの、不正検査問題の影響で生産が安定しない。
	その他の製造業		木材は、製品の荷動きが悪くなってしまっており、在庫数量が増加。紙加工品は、元売各社が生産調整に入ったことで販売数量が激減。印刷は、用紙の値上げは一段落したが、10月に迫った消費税増税を不安視している。ゴム製品は、米中貿易摩擦の影響はなく、自動車部品関連商品が堅調に推移。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、食品関係のネットショッピングにおいて消費税軽減税率制度への対応に苦慮している。前橋卸団地は、消費税増税と米中韓の関係悪化を不安視。太田卸団地は、物流費の増加と人手不足の影響で経費が増加。農産物卸は、西日本での豪雨災害が果実に与える影響を懸念。水産物卸は、売上・収益ともに減少。
	小売業		家電小売は、引き続きエアコンが好調だが、その他は低調。中古車オークションは、消費税増税前の駆け込み需要はみられず、前年並みの推移となる。燃料小売は、原油価格低下と需要減少により売上減少。生花小売は、父の日やジューンブライドの効果が薄く前年並み。商店街は、梅雨の影響で来街者が減少し業況悪化。
	サービス業		温泉旅館は、週末に開催されたスポーツイベントやインバウンド需要増加により団体客を中心に宿泊客が増加し売上増加。太田市域における不動産取は、中古住宅の取引が盛んとなっており堅調に推移。自動車整備・建築設計は、売上・収益ともに前年並みに推移。
	建設業		建設工事は、一部地域への集中的な公共工事発注により事業量に偏りが発生し、地域間格差が拡大。解体工事は、夏休み中の学校関係の工事が決まり売上増加見込み。塗装工事は、受注が落ち込み売上減少。鉄構は、受注単価が下がる傾向がみられる。電気工事は、仕事量は安定しているが、若手を中心に人手不足が続く。
	運輸業		全体的に、燃料価格が低下し輸送コスト低減となるものの、内容を問わず荷動きが低調に推移し、仕事量が減少している様子がうかがえる。野菜関係は、キュウリ、ほうれん草などが平年並みの荷量となる。小口配達は、物流会社からの依頼が大幅に増加したことで売上増加。